

「地方たばこ税を活用した分煙環境整備」

九州中部連合会と熊本県耕作組合
熊本県議会議長と熊本県耕作組合

九州中部連合会(益田龍朗会長)は12月2日、熊本県たばこ耕作組合(石川政臣組合長)とともに、熊本県議会議長の自民党応接室に、県



左から、石川政臣県耕作組合長、益田龍朗九州中部連合会会長、松田三郎県たばこ議員団団長

たばこ議員団団長の松田三郎県議と池田和貴県議(天草組合理事長)ほか議員団の議員を訪ね、「地方たばこ税を活用した分煙環境整備」について情報提供と協力要請を行った。

当日は、益田会長より今回の取組みに至った経緯などの概要説明の後、尾上匡事務局長から詳細な説明を行い、「地方たばこ税を活用した分煙環境整備」実現のためには、地方での理解獲得と機運醸成が重要であることを訴え、協力を求めた。

県議からは、「主旨は良く理解できた。来年6月の県議会で国へ意見書を出すことで進めていきたい」、「前回のよう、関連する飲

TIOJ「使用済み加熱式たばこ機器等のリサイクル事業」にJTとBATJが参画

一般社団法人日本たばこ協会(TIOJ)は、加熱式たばこ市場の成長に伴い、リサイクルに対するお客様の関心の高まりや、廃棄方法に困っているお客様に対応するため、

2月より「都三県の一部販売店などでリサイクルマークステッカーが目印」

パコ・ジャパン(BATJ)と日本たばこ産業(株)(JT)の2社で、回収対象機器等は、BATJの「glo(グロム)」とJTの「Ploom(プルーム)」各種の使用済み機器本体と一部の消耗品。ただし、両社以外の加熱式たばこの機器等は回収対象外である。

回収方法は、お客様が回収対象機器等を回収店舗に持ち込み、その機器等をTIOJが回収し、適切にリサイクルする。回収店舗は、東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県の一部販売店(約500店舗)。回収店舗には、目印としてリサイクルマークステッカー(別掲)を掲示する。回収店舗の詳細については、2020年2月以降、TIOJ並びにJT、BATJのホームページ等で確認できる。



リサイクルマークステッカー

食業組合等とも連携を取って進めて欲しい」、「今まで自由に使えた分が減らされるとなると、抵抗があるし、説得も難しい。納得が得られやすいやり方で進める必要がある」など、前向きな意見やアドバイスを頂き、今後、県議会議長から国への意見書提出に向けて、情報交換を行いながら、連携していくことを確認した。

中高生らと喫煙防止キャンペーン

鹿児島県 鹿屋組合



鹿屋組合(久保蘭東理事長)は11月17日、鹿屋市寿にある大型スーパーのタイヨー・サンキュー寿店にて、関係団体と鹿屋っ子クラブ(地元の中学生・高校生が組織するボランティア団体)の代表者らと共に、「未成年者喫煙防止キャンペーン」を実施して未成年者の喫煙防止を呼び掛けた。

当日は、久保理事長はじめ、組合役員と女性部員(大保サチ子部長)、JT鹿屋支店長、鹿屋っ子クラブ、鹿屋警察署、鹿屋市社会教育委員会の代表者、総勢28名(写真)が、未喫防止チラシ、ティッシュ、マスク、人形などを配付しながら、未喫防止を訴えた。

お詫びと訂正

12月号5面の「特集:女性部リーダー研修「グループ研究」」の記事で、「Aグループ」と「Eグループ」のグループ分けが間違っており訂正しました。お詫び申し上げます(順不同、敬称略)。

- Aグループ ●石木田優子(東北・秋田県組合) ●箱田日出子(上信越・長野県組合) ●鈴木弘子(東京都・中野組合) ●吉田みや子(北陸・福井組合) ●西川美弥子(東中国・鳥取組合) ●瓜生茂子(九州北部・福岡県組合)
- Eグループ ●飯原時由子(上信越・新潟組合) ●斉藤光江(東京都・新宿文京組合) ●久保美枝子(北陸・福井組合) ●中上礼子(関西・宮津組合) ●川崎鈴子(四国・松山組合) ●川越徳子(九州南部・宮崎組合)

一春の全国火災予防運動ー寝たばこ火災防止の注意喚起キャンペーン

TIOJ 組合員にティッシュ配付

一般社団法人日本たばこ協会(TIOJ)は、2020年「春の全国火災予防運動(3月1日〜3月7日)」にあわせて、消防庁・全国消防長会(全国726消防本部)の消防長で構成された後援全協の協力により、寝たばこ火災防止の注意喚起キャンペーンを実施する。

寝たばこ火災防止の三カ条

- ふとんで吸わない
- 灰皿には水を入れて
- 消えたかどうか、絶対確認!

組合員に配付されるチラシをセットにしたティッシュ。③表面④裏面

「百害あって一利なし」言説の背景

武田良夫

「たばこは百害あって一利なし」「男性のがんの4割はたばこ」(2006年、厚生労働省研究班)という言説は疫学研究に拠っていますが、これを信じてよいのでしょうか。

がんになった人を検査しても亡くなった人を解剖しても原因は分かりませんから、結局、喫煙者と非喫煙者の生活習慣などを比較分析する統計的手法(疫学)に拠らざるを得ません。しかし、ある期間で得られたデータを処理するだけでは要因(例:喫煙と肺がん)に統計的な(相関関係)が見られたことを明らかにするだけで、「その原因を無くす(減らす)結果も無くなる(減る)という(因果関係)を証明したことはなりません。というの、成人病のような(複雑系の疾患)は、調査した原因と結果の双方に因果关系をもつ多くの要因(交絡因子)という」が関わっている、因果関係を複雑かつ曖昧にしているからです。(交絡因子)がどのようなか、どれほど影響が大きいかは、喫煙が主要なリスクとされている肺がんや脳卒中、認知症などの発症にかかわる疫学調査の例を挙げるとわかり易いでしょう。

「座り過ぎ」が「煙り過ぎ」が「肺がんを招く!」

疫学研究は因果関係を立証できない

なっていたが、「交流が少ない」グループは適量飲酒でも1.45倍に高まっていた。④東京医科大学のグループが65歳以上の高齢者49万人を3年間追跡。家の近くに新鮮な食品を扱う食品店がどれくらいあるかで認知症の発症リスクを調べたところ、「まったくない」という人のリスクは「たくさんある」という人の1.65倍だった。⑤独り暮らしの人を対象とした研究で、犬を飼っていると心疾患による死亡リスクが33%も低下、脳卒中は27%、全死亡率は24%も下がるというデータがあるという(週刊ポスト/2019.11.22号)。⑥日本福祉大などのグループが高齢者2.8万人を所得

によってグループ分けし、4年間追跡。最も所得の高いグループに比べて低所得層の死亡率は3倍だった。いづれも(相関関係)が見られたことを明らかにしただけですが、面白いデータですね。無職(低所得)で交流が少くない人は買い物に行かず食生活も偏りがちで、家に居て座ってTVを見ながら酒を飲んだり、たばこを吸うことも多いでしょうから、すべてが成人病の発症要因として(交絡)しているわけで、個別にどの要因がどれくらいどのリスクになるのか、特定するのは困難でしょうね。Aですから、数学者の藤原正彦・お茶の水女子大学名誉教授は、「肉を食べると長生きする」というのだから、肉を頻繁に食べるのは富裕層で、より良い環境や医療を享受できるかもしれないし、単に肉を食べられるほど健康な肉をもっている人は長生きするということかもしれない。統計調査で因果関係を立証することは至難で、ほとんどは相関関係と心得てよい。マスコミヤ学者を含め、世界の大半の人々はこれら二つを混同しているから、健康に関する統計が出るたびに「喜ぶ」と書いていますが、「管見妄言で済ませない話」(2018年/新潮社)まさに(交絡因子)問題の指摘であり、二つの要因間の相関データによって、あたかも「因果関係を証明した」かのようには伝えないことを皮肉っています。(続、次号)